

トイレの と



Contents

JAPAN TOILET ASSOCIATION



- | | | | |
|--------|-----------------------|---------|---|
| 1 - 2 | 総会報告 | 12 | 会員レポート トヨタのモバイルトイレの見学報告 |
| 3 | 退任挨拶 小林純子氏 | 13 - 16 | 連載5 日本トイレ協会40周年にあたり
「温故知新」～これまでの協会と今後～ |
| 4 - 6 | 新役員 就任の挨拶/新入会員のご紹介 | 17 | 第40回全国トイレシンポジウムの開催のご案内 |
| 7 - 10 | 会員レポート いまどき! インドのトイレ旅 | 18 | お知らせ |
| 11 | 私の推薦トイレ | | |

2024年度定時総会は、会場とオンラインとのハイブリッドにより開催されました。総会後の記念講演は大学生 原田怜歩さんのお話を伺いました。終了後の懇親会では、若い会員を含め久しぶり或いは初めての会員同士が交流を深めることができました。

開催日時 2024（令和6）年6月8日（土） 13:00～15:00
 開催場所 文京シビックホール会議室 1+2 及び ZOOM オンライン会議室
 出席者数 出席者 105 名（会場 30 名、事前表決及び委任状（オンライン参加 13 名を含む）75 名）
 成立確認 議決権総数 210 名のうち、上記の通り 105 名の議決権を有する会員の出席があり、
 定款第 16 条による定足数（議決権の 3 分の 1 以上）を満たし総会は成立
 司 会 浅井佐知子運営委員
 議 長 赤堀時夫副会長

第 1 号議案 2023 年度 活動報告
 小林会長及び各担当理事・運営委員より、2023 年度の活動報告がありました。

第 2 号議案 2023 年度 収支報告及び監査報告
 2023 年度の収支決算に関し次の報告がありました。
 中森事務局長より、収支決算報告
 小林会長より、期末残高に関する収支処理案
 松田監事より、2023 年度事業報告及び収支決算について監査報告

第 3 号議案 定款の一部改定（案）
 理事の人数及び運営委員の構成員に関する定款の一部改定が提案されました。

第 4 号議案 理事・監事の退任及び選任（案）
 理事 5 名及び監事 1 名が本総会の終結をもって任期満了により退任することが報告され、
 理事及び監事の改選について理事会に推挙された 7 名の方が選任されました。

理事 上野義雪氏（重任）
 理事 高橋未樹子氏（重任）
 理事 山本浩司氏（重任）
 理事 山本耕平氏（再任）
 理事 砂岡豊彦（寅太郎）氏（新任）
 理事 中森秀二氏（新任）
 監事 橋本正法氏（新任）

* 総会終了後に開催された臨時理事会において山本耕平氏が代表理事（会長）に選定されました。

第 5 号議案 2024 年度 活動計画（案）
 山本耕平新会長及び各担当理事・運営委員より 2024 年度の活動計画案の説明があり、
 山本新会長は 2024 年度活動方針について新体制でも更に検討していくと述べられました。

第 6 号議案 2024 年度 収支予算（案）
 中森事務局長より、2024 年度収支予算案の説明がありました

全ての議案について、会場出席者による表決及び事前表決、委任状を合わせて賛成が過半数を満たし承認されました。議事終了後、事務局長より次の報告がありました。

- ① 運営委員の改選期にあたり、29 名（内 6 名が新任）の方が運営委員に委嘱されたこと。新任の橋本委員については本総会で監事に選任されたことにより運営委員を辞任するため、今期運営委員は 28 名となること。
- ② 本総会をもって退任する小林純子氏が理事会により名誉会長及び顧問に選任されたこと。

全ての議事及び報告事項が終了し、議長が解任されました。続いて、本総会をもって役員を退任される、小林会長、赤堀理事、松田監事に花束を贈呈し、ご挨拶を頂戴しました。最後に、会員数の報告と昨年の総会以降に入会承認を受けた法人会員2社が紹介され、15時に総会は閉会しました。

記念講演

総会終了後、15時20分より東京大学経済学部3年生の原田怜歩さんに記念講演をしていただきました。テーマ「トイレで渡米、トイレで入学！7年間のトイレ研究記」として、原田さんがトイレの興味をもったきっかけから東京大学へトイレ研究で推薦入学したこと、そして経済学の観点からトイレ研究に取り組んでいることなど、現代の若者らしい視点で語って頂きました。トイレ協会でも若手の会 flush が大学生、若手社会人会員を中心に活動しています。参加者の皆様には新しい風が吹いているのを感じて頂けたのではないのでしょうか。

事務局



事務局からお知らせ

■協会連絡先の変更

日本トイレ協会の連絡先を下記の通り変更いたします。

事務局住所

〒105-0003

東京都港区西新橋3-15-12 GG HOUSE 5階

(株) ダイナックス都市環境研究所内

*電話番号はなくなります。

事務局への問い合わせ等は原則としてメールのご利用をお願いします。

Email : info@j-toilet.com

小林純子 (一社)日本トイレ協会 名誉会長(前会長)/(有)設計事務所ゴンドラ 代表



私は当協会の会長を、2020年6月から本年度6月までⅡ期4年務めさせていただきました。新型コロナ「緊急事態宣言」終了は、2023年5月ですので、コロナと共にあったということになります。この間の変化は、対面でリモート会議やセミナーが定着し、協会は逆に活性化されました。が一方で、交流の機会が限られてしまいました。しかし、入会希望者も多く、マスコミ等からの問い合わせも国内外からあり、当協会が国内外から益々期待度が高まっていると感じた4年間でした。

会長になってやりたかったことは、3つでした。

1つは、協会監修の本を刊行し、トイレから社会・世界・地球が見えることを平易にまとめ、トイレへの理解を広めたかったこと。これは前任者の高橋志保彦会長、故鎌田元康副会長の希望でもありました。そして、「進化するトイレシリーズ」(柏書房)、快適トイレ編、災害トイレ編、SDGs編の3部作として発刊されました。全体編集長を山本耕平氏、また、各本で編集委員会を設け、多くの会員、会員外の皆様に執筆をお願いしました。

2つは、うんと知りたいセミナーです。これは、協会として何かまとまった発信が欲しいとの声を受けたものですが、川内美彦氏が中心となり、今は無くてはならない協会の顔の1つに育て上げていただきました。

3つ目は、会長として一度全会員に直接、協会への期待や意見を聞きたいということでした。毎回約10名をリモートで繋ぎ、「語る会」を実施しました。しかし、毎回出席者が少なく、もっと効果的な方法を見つけようとの意見から途中で中止となり今に至っています。

会長になって見えた課題

1つは、会員増強です。財政を支える柱としてまた、協会の活性化に必要ですが、活動参加者は固定化の傾向があり、また、入会者は増加しているものの退会者も約同数おり、新会員へ積極参加の誘導や居場所づくりが必要となっていること。

2つは、会員の人材活用の活発化でした。会員にどんな人材がいて、トイレ協会に対する内外からの要請を、協会内専門家にどう割り振るかのベースとなる会員名簿がありません。セキュリティの問題をクリアしながら、議論してほしい議題です。

やり残したことも多くありますが、多くの会員が参加する会にしたいと多くの時間と知恵を絞ったのも事実です。会員増強については法人会員の会の創設ができました。また、微力な私故、理事、監事の皆様には多くのお力をいただきました。運営委員、事務局の皆様には、激論を交わすこともありましたがそれほど熱心に議論できたということです。ご協力感謝いたします。今後は山本耕平新会長に期待し、私も顧問として見守らせていただきます。

山本耕平 (一社)日本トイレ協会 会長/株式会社ダイナックス 都市環境研究所 代表取締役会長



このたびの総会において、会長に選出されました。会員の皆様のご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

日本トイレ協会は、来年 2025 年 5 月をもって設立 40 周年になります。私はその前身である「トイレットピアの会」の世話人で、トイレ協会の創設者の一人ですが、3 K、4 K(きたない、くらい、くさい、こわい)という言葉のルーツになった公共トイレが、「日本が誇る最高水準の文化、それはトイレだ !!」(「トイレ学大事典」のコピー)と言われるようになるとは当時は予想もしていませんでした。

言うまでもなく、「トイレ革命」の火つけ役になったのは日本トイレ協会であり、建物や設備、器具の進化、世界に冠たる清掃・メンテナンスの充実、国や自治体の政策への影響など、すべての面において日本トイレ協会および会員の方々が大きな役割を果たしてきました。

一方で、まだまだ課題はあります。トイレがよくなればなるほど、新しい課題が見つかる、と言った方がよいでしょうか。たとえば世界では日本の快適なトイレは観光資源にすらなっていますが、SDGs の視点からはまだ 4 億人以上が屋外で排泄しているという事実があります。ジェンダー平等という考え方に対して適切なトイレ環境への答えは、まだ模索中です。能登半島地震で再びクローズアップされた災害時のトイレ問題は、重度障がい者や幼児のトイレといった、誰一人取り残さないインクルーシブ防災という視点からの新しい問題が提起されてきています。

ちょっと思いついただけでも、このような問題を指摘することができます。日本トイレ協会の社会的使命、社会から期待されていることはまだまだたくさんあるということ、みなさんとともに再確認したいと思います。

ただし日本トイレ協会は、行政やどこかのクライアントから何らかの義務を負って活動しているわけではありません。もともと、トイレに関心のある、あるいはいろいろな分野でトイレに関わりのある人が集まって、ゆるやかに交流することを目的として設立された団体です。その活動の過程で課題を共有し、会員それぞれの活動に還元され、その積み重ねが今日の状況につながりました。いうなれば、プラットフォームとしての機能、役割を果たしてきたわけです。

したがってトイレ協会をどのようにしていきたいかという問いに対して、私はほとんど答えを持ち合わせていません。トイレ協会とは、トイレが大好きな仲間が集うプラットフォームです。ここではいろいろな議論やアイデア、社会課題に対するソリューションが生まれることでしょう。私は舵取りをするのではなく、皆さんといっしょに、その一員として議論に加わり、活動していきたいと思っております。

日本トイレ協会は自主的・自立的に運営してきました。それは会員の皆さんの支えによるものです。言い換えれば、この団体、プラットフォームは会員みんなで共有しているわけです。会員にはいろいろな知見をお持ちの方がおられます。これまでの実績、人材、情報、ネットワークといったリソースの宝庫であるトイレ協会というプラットフォームを、ぜひ活用していただきたいと思います。ご自分の仕事、ご自身の関心事、研究、課題、心配事、趣味・・・を、日本トイレ協会というトイレ好きが集まるプラットフォームに持ち込んで、みんなでわいわいと自由に語りあい、その中から実践につながるものが出てくれば面白いですね。

さいわい、若い世代の会員が増えてきました。若い会員の皆さんこそ、プラットフォームが蓄積してきた様々なリソースを活用して、新しい活動につなげて行ってほしいと思います。私が会長としての目標をひとつあげるとすれば、若い世代がいきいきと活動できるトイレ協会とすることです。ぜひ若い会員の中から、次の会長が誕生することを期待しています。



寅太郎（砂岡豊彦） 理事 / 元レンタルのニッケン取締役常務執行役員

6月8日の会員総会にて理事に就任いたしました砂岡豊彦と申します。

前職にてビジネスネームとして「寅 太郎」を使っていたので、卒業後も仕事の時は「寅太郎」を使わせていただいています。トイレ協会とは協会に組織される前のトイレトピあの時代からの付き合いとなります。前職では、建設現場やイベントの時に、立ちションや電信柱に立ション禁止の鳥居のマークが残っていた時代で、それらの解決に向けて仮設トイレのレンタル、乾燥トイレの開発、災害時のトイレを含むたくさんの商品の提供を担当してきました。1私企業では解決できない諸問題を、トイレに関心を持たれている様々な分野の方々と語り合うことが出来ました。集まったメンバーでの自然発生的な活動で、建設現場のみならず、イベント、山のトイレ、河川敷のトイレ、ノーマライゼーションなどの活動などに参加させていただきました。世の中が汲み取り式トイレから水洗トイレの普及に向けて、快適さの追求、車椅子トイレ、オストメイト、ベビーチェア、オムツ替えベッドなどなど、進化して来るのを見させていただいてきました。トイレを売りにした施設も散見されてくるようになってきましたが、誰もが大切な場所であるにも関わらず、隅っこに最低限の設備となってしまうところも多々あるのが現状です。今、インクルーシブとか、多様性が唱えられている世の中で、まだまだ、マイノリティに配慮されずに、世の中のマジョリティによる取り組みを見かける都度、悲しい思いをしています。インクルーシブを唱えながらマイノリティに配慮と言いながら、差別化に繋がらないように。マイノリティに優しいトイレは、誰にでも優しいトイレになると思います。環境やエネルギー問題から考えると、水洗化が万能とも言えない時代になるかと思っています。トイレ協会の様々な会員さんの得意分野を出し合って、これからの時代のトイレについて語り合えたら良いなあ。と、思っています。



中森秀二 理事 / 元（株）LIXIL

この度、新たに理事に就任いたしました中森です。(株) INAX～(株) LIXIL を 2021 年に定年退職し、2022 年からトイレ協会の事務局長を務めています。トイレ協会との関わりは、協会の発足直後の 1980 年代の後半からになります。当時 INAX は CI 戦略の重点戦略としてトイレ空間の快適化に取り組んでおり、その商品開発や企画に私が携わっていた関係で、公共トイレの環境改善を目指して活動を開始したトイレ協会との関係が始まりました。日本のトイレ快適化の黎明期とも言える頃のことです。その後、人事異動などによって協会との繋がりが希薄になった時期もありましたが、関係者の皆様との交流は続き”付かず離れず”的な関係はずっと続きました。その後 2011 年の渉外部門への異動によって再びトイレ協会と密接に係わることになり、2016 年には協会の一般社団法人化があり、以来運営委員を務めてきました。この度は事務局長兼務の理事に就任することになりましたが、トイレ協会が皆様にとって「生き生きと活動できる場」であり、「会員で良かった」と思っていただけのように努めて参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



橋本正法 監事 /NPO 法人地域交流センター代表理事

私が地域交流センターに入所したのは1992年2月末、栃木県の「道の駅」社会実験が始まるころでした。右も左も分らぬまま、日本トイレ協会の協力のもとに仮設トイレを設置し、利用者数などを調査したことが思い出されます。その後、都市小屋“集&YU”の小屋番を1年8カ月ほど務めました。当時の“集&YU”では「トイレピアの会」のほか、「日本昆虫倶楽部」「未来雑誌研究会」「瀬戸内海クラブ」「流通部会」等々、多彩な集会在夜な夜な開催されており、私も小屋番仕事の合間に会場の隅っこで聴いたりしました。また、1994年5月には「サロン集&YU 20周年記念交流会」を開催し、基調講演を日本トイレ協会初代会長の西岡秀雄先生にお願いしました。都市小屋“集”は2015年に閉店したため、今は神保町の“ブックカフェ20世紀”で「被災地域の酒を飲む会」などを継続しています。なお、今年は集の誕生から50年目に当たります。その節目の年に、日本トイレ協会の監事を仰せつかるのも不思議なご縁を感じています。どうぞよろしくお願い致します。



理事6名のみなさん

左から

山本浩司 理事

上野義雪 理事

山本耕平代表 理事

寅太郎 理事

高橋未樹子 理事

中森秀二 理事

新入会員のご紹介



山本 健人さん
学生会員

Q1 トイレ協会に入会したいと思われたきっかけ、理由はなんですか？

大学院で観光経営を学ぶ中で、観光産業が公衆トイレ、特にコンビニエンスストアのトイレに与える影響について研究していることがきっかけです。

Q2 何を勉強されていますか？

現在は、京都大学経営管理大学院で観光経営について学んでおります。京都では特にオーバーストリームから、観光モラルや地域社会への影響が社会問題化しており、持続可能な観光の在り方について研究しています。

Q3 会員として今後関わっていききたいことなどご自由にどうぞ

日本の魅力の1つとして海外からも評価されるトイレを持続可能にしていくために、その在り方について学んでいければと考えています。

Q4 あなたにとってトイレとは？

小さなころから胃腸が弱く、急な便意を公衆トイレ、とりわけコンビニエンスストアのトイレには救ってもらっていました。海外から帰国しても、まず空港のウォッシュレットに直行します。そんなトイレは自分にとって不可欠なパートナーです。

白倉正子 メンテナンス研究会 副代表幹事 / 運営委員 / アントイレプランナー代表

1、どうしてインドのトイレを、わざわざ見に行ったの？

世界のトイレ改善に興味がある私は、『生きている間に、世界中の「トイレの博物館」を全部訪問したい』という夢があります。その1つが、インドにあるので、いつかインドに行きたいと願っていました。そんな中、日本トイレ協会会員であるフジイ環境整備株式会社（兵庫県）の土本正男さんと吉田正人さんが、インドと縁が深く、今後トイレ関連の活動を検討していることを伺いました。そこで「近いうちに、一緒にインドに行きましょう」と誘っていただきました。そこで国際的なトイレ支援に興味がある学生会員の江藤克さんや個人会員の川上美季さんも一緒に行ってきました（2024年2月9日～18日）インドでは、東側にあるコルカタに到着後、ブッダが悟りを開いた地であるブッダガヤ、ガンジス川での沐浴が有名なバラナシ、王様の奥様の美しいお墓として有名なタージマハル、首都のニューデリーなど、主にインド北東部を訪問しました。



インドに、日本トイレ協会の会員が5名を含む8名で行きました。みんなトイレにスマホで撮影する姿を、現地の人はびっくりしたでしょう（笑）

2、インドのトイレって？どんな状態なの？



屋外排泄をするインドの生活者の様子。朝になるとこうした姿があちこちで見られる。（出典：「TURNING THE PAGE OF HISTORY OF INDIA」P18～19）



公衆トイレに貼ってあるトイレの概要が書かれたポスター。「スワッチバーラト」の影響だろう。（撮影：2022年現地滞在の日本人のSさん）

SDGsのゴール6に「安全な水とトイレを世界中に」と掲げられ、特に「屋外排泄の根絶」と「女性や幼児、脆弱な立場の人々のニーズに特に注意する」と示されています。これにより、世界にはまともなトイレが無く、屋外で排泄をしている人が多くいることが判明しましたが、その半数近くが、インドの人だと言われています。それを改善しようと、モディ首相自ら2014年より屋外排泄を根絶する運動「スワッチバーラト」を開始しました。これはヒンズー語で「インドをきれいにしよう」という意味で、5年後の2019年にすべての人がトイレを使えるように活動が展開され、100%達成したと言われています（実態はまだ完ぺきではないと、ささやかれてもいますが…）これにより、屋外排泄をしている時に、性被害に遭っていた女性たちを守ろうとしていました。ただしし尿処理技術はまだ十分とは言えません。

インドは人口が14億人となり、中国を抜いて、世界第一位の国になりました。あちこちで開発が進み、日本企業も多数進出しています。とにかく今、インドは熱いのです！

インドのトイレ事情に興味がある人は、「13億人のトイレ」（佐藤大介氏著／角川新書）や映画「パッドマン」（2018年上映）が、ちょっと古いですが、参考になります。興味がある人は、そちらをぜひご覧ください。



インドでよく見かける平べったいしゃがみ式の便器。奥の穴にお尻の穴を合わせてしゃがむ。壁のそばに水道と手桶があり、それで陰部を洗う。



日本では見かけることのない、アングロインド型便器。写真では見たことがありましたが、実物を見て、「おお〜！」と興奮してしまいました。



左の壁にかかっているピストルみたいな金属が陰部を洗浄するシャワー。取っ手を握ると水が勢いよく出る。清掃にも使える。奥にトイレットペーパーのフォルダーがあるので、使いにくい。

3、インドの便器の形状

インドのトイレを見て、日本人が最初に驚くのは、便器の形でしょう。日本でいう和式トイレ（＝しゃがみ式）が、金隠しのない平べったい形をした陶器製で、足を置く部分に波々となっているからです。この便器の名前は、ある書籍で「トルコ式便器」と表記してありました。

このタイプは中央には楕円形の穴があり、奥の壁側に深い穴があります。日本人の場合、この深い穴を前側にして、しゃがみたくなりますが、海外では逆、つまり深い穴に、お尻の穴を向けて、しゃがむのが正しいしゃがみ方です。なおホテルや公衆トイレでは、洋式トイレ（腰掛式）を見かけることもできました。

さらにびっくりしたのは、「アングロインド型便器」です。これはしゃがみ式と腰掛式の両方の使い方ができる便器で、エラが張ったような形をしています。一見便利だと思いますが、しゃがみ式として使う場合には、30 cmほどの高さの部分に乗ってしゃがむことになるので、不安定で怖い気がします。逆に腰掛けようとする、波々しているので座り心地が悪い上に、他人の靴や尿跳ねなどの汚れが自分の腿に付着しますので、不潔感がある気がします。ネットで調べたら、プラスチック製の便座が付いているタイプもありました。

4、お尻の洗浄方法と、汚物を水を流す方法

排泄後の陰部をきれいにする方法ですが、しゃがん位置から届く位置に、床から 30 センチくらい低い位置に水道があり、手が折れ曲がった手酌が置いてあります。水道から出た水をこの手酌に溜め、左手で陰部を洗い流します。そして残ったお水で、便器内の汚物を流して終了です。

なお金属製シャワー（水のみ。お湯は出ない）が壁にひっかけてあり、それを陰部に充てて洗浄をするタイプのトイレもありました。水の勢いはとても強く、周囲や下着をビチャビチャに濡らしそうです。

「あれ？濡れたお尻を拭かないの？」と思うのですが、残念ながらトイレットペーパーが無いケースが多かったです。つまり自然乾燥をするのでしょうか。しかし下着やズボンが濡れてしまうので、現地の人には陰部用のタオルを用意して、拭いているとか…。ブース内には、荷物を掛けるフックや棚が無いので、実際にどうしているかは疑問です。

ブース内にトイレットペーパーが設置されているケースもありますが、背面にあることが多く体をひねらないと使えないので、ちょっと不便です。紙質は厚くて、水洗トイレではなかなか流し切れません。巻きも小さい（短い）ので、インドではあまりトイレットペーパーが使用されていないことが感じられます。現地の人に聞いたところ、「紙で拭くのは、不潔感がある。水の方がきれいに洗えた気がする」とおっしゃっていました。まさにこれが国民性や地域性なのですね。

ちなみに、温水洗浄便座は見かけませんでした。もしあるとしたら、日本人が宿泊するような高級ホテルにある程度だと予想されます。

5、公衆トイレの様子

トイレは大きく「家庭用」と「公共用」がありますし、都市部と農村部では大きな違いがあります。ここでは公共のトイレについて伝えます。

公衆トイレは「有料」が当たり前で、男性のおしっこは無料、大便器ブースを使う場合には5ルピー（約9円）がかかります。9円は安いと日本人は思いがちですが、インドの貧しい人にとっては、本当に安いかは疑問です。中には常に男性の管理人が常駐しており、清掃や集金を行っていました。

一部のトイレでは、体を洗えるシャワー室のようなブースもありました。また車椅子用トイレのような、身体の不自由な人用の広めのトイレも一応ありましたが、簡単な手摺りがある程度で、まだまだ配慮が足りないと感じました。なお、これ以外に、「コミュニティトイレ」や「PPPトイレ」がありました。

「コミュニティトイレ」とは、各家庭で「トイレ使用料」の月額100円程度を払い、その証明カードを示すとトイレが使えるという具合です。今風に言うなら「サブスクリプション・トイレ権」とでも表現すればいいでしょうか？

「PPP (Public Private Participation) トイレ」とは、企業が行政に費用を支払うと、トイレ用の土地が提供され、その企業はトイレの外壁などに自社の広告宣伝ができます。利用者はトイレ使用料を支払います。日本にあるトイレで当てはめるとしたら、神戸市の「市民トイレ」や渋谷区他の「ネーミングライツトイレ（命名権のトイレ）」に似ていると言えるでしょう。

なお、「スワッチバーラト」で管理されたトイレには、ガンジーの顔や眼鏡のイラストと共に、トイレの管理状況が書いてあるポスターのような掲示物が張ってあります。また有名観光地のバラナシでは、日本のJICAの国際支援により、150か所の公衆トイレや下水処理施設の整備が進んだそうです。こうして、インドはみんなですべてをきれいに努力していると感じました。

6、生まれて初めて見た「女性の生理用ナプキン焼却機」

映画「パッドマン」で知ったのですが、ヒンズー教では、生理中の女性を「穢れ（けがれ）」の存在として扱います。よって生理中の女性たちは、台所や仏間に入ることが許されません。また生理用ナプキンは高級品でした。そこで映画では、女性たちが安価なナプキンを自ら作成し、販売事業を通じて自立していく実話が紹介されていました。

公衆トイレを見ていると、トイレブース内にゴミ箱がある所と無い所があり、「使用後のナプキンはどう処分するのだろうか？」と疑問でした。そんな矢先、女性トイレ内で使用済ナプキンを焼却する機械を発見しました。上部の扉にナプキンを投入し、ボタンを押すと数分後に灰になる…という具合です。ここ数年の間に誕生したらしく、「そこまでやるか！」と、宗教上の文化や習慣の違いを、目の当たりにし、メガテンになりました。



インドでよく見かける平べったいしゃがみ式の便器。奥の穴にお尻の穴を合わせてしゃがむ。壁のそばに水道と手桶があり、それで陰部を洗う。



観光地で見た「PPPトイレ」の外壁。企業が費用を捻出しており、その見返りとして、トイレに広告が掲示できる。このトイレはおそらく清掃道具のメーカーの広告だと思われる。



女性用トイレで見つけた（仮称）使用済ナプキン焼却機。経血を含んだナプキンを上の扉を開いて投入し、焼却。数分後に下部に灰が落ちてくるらしく、それを引き出して処分すると思われる。

7、インドのトイレ博物館「スラブトイレインターナショナルミュージアム」

インドでは、カースト制度と呼ばれる身分制度があることが有名です。それは時代と共に廃止されつつありますが、まだまだ根深く残っているとされています。その中で最下位の人たちは「ダリット」と呼ばれ、生涯変えることができません。こういう人たちには「重労働」が課せられることが多く、トイレの清掃や（便槽に全身で入って排泄物をバケツで出すなど）汚物処理の作業があてがわれます。それに怒りを感じた故：ビンデシュワル・パタク博士は、インドのトイレ環境の改善を目指し、「スラブインターナショナル（スラブ国際社会福祉団体）」を1970年に発足させました。今では国内に多数の支部があり、公衆トイレを作ったり、衛生教育活動を行っています。

私たちが訪問した博物館では、この団体の活動を展示していました。入場料は無料で、誰でも見学できます。博物館の展示内容は、汚物から水やメタンガス・堆肥を生成するシステムが実働しており、その堆肥化で草花を育てているプラントもありました。また農村部で行っている2ピットし尿処理方式の展示では、便器から排出された汚物が、地中に埋まった左右のピット（穴）に交互に投入されるようになっている様子を再現してありました。片方を2年くらいかけて使用し、満杯になったら、もう片方に投入するそうです。溜まった汚物は悪臭がありません。汚物は堆肥化し、最終的には畑に撒かれるそうです。こうしてピットを何度も繰り返し使い、資源を有効活用できるわけです。

その展示の横の部屋では、世界のトイレの展示がありました。壁にたくさんの絵や写真が飾られ、ヨーロッパで使用されていた椅子型のトイレに実際に座ることができます。日本のトイレの展示も数点発見しました。博物館の横には、学校がありました。ここにはダリットの子供たちが通っており、職業訓練所のようになっています。つまり身分制度に負けずに、社会できちんと生活できるように…と設立されたそうです。最近は大いび生徒数が減ったそうです。

8、最後に

「トイレは文化のバロメーター」と言いますが、同時に、インドのトイレの課題も見えました。インドの発展と共に、トイレもきっと変わることでしょう。今後の発展が楽しみです。



スラブトイレインターナショナル博物館で再現されていたし尿処理システムの一部。これで採取できたガスは、料理もできるほど強い火力でした。



2ピット方式のトイレ。便器の先に2つの穴があり、数年置きに汚物を交互に投入する。中身は石や糞など、現地で調達できる素材で作っていた。



世界中のトイレ文化の展示をしている展示室。実際に座れる便器もある。国内外から視察がたえず、私たちの訪問日も遠足で生徒が来ていた。

私の 推薦トイレ



吉野 直樹

個人会員／長崎市役所まちなか事業推進室

流れるがままに。

今の仕事で、トイレに並々ならぬ情熱を持った方たちに出会い、昨年、日本トイレ協会のシンポジウムで講演させていただき、そのままの流れで個人会員になっていました。

3月に入会しましたが、総会などは東京開催が多いし長崎からそうしょっちゅう東京にも行けないし、そんなに個人としてすることはあまりないだろうなと油断していたところに、突然このページの執筆依頼。締め切りまで時間がない！しかも仕事関係のトイレは既にネタバシ。どうしようかと、目を閉じ、頭を斜め上に向けながらトイレ・・・トイレ・・・自分のおよそ半世紀の記憶を掘り起こしながら書いてみることにしました。

トイレとの出会い

遡ること、四十数年前、長崎県大村市の片田舎に生まれた私は、布おむつ（トイレ？）にお世話になり、アヒルのおまる（トイレと呼ぶには微妙）で訓練し、ぼっとなん便所（汲み取り式）に挑戦といった段階を踏み、1人の人間として成長しました。

記憶している限りでは、このぼっとなん便所が初めてのトイレだったと思います。なぜ挑戦かという、穴が深いんです。その穴に小さいからだで跨ぐ時の恐怖、落ちたときの悲惨な光景を想像すると、やはり小さいときの私にとっては挑戦だったと言えるでしょう。

その後、中学生になる前に、簡易式の水洗トイレ（汲み取り）になりましたが、田舎だったためか、下水道（農業集落排水）の整備が遅く、下水道につながり完全な水洗トイレになったのは、市役所に就職したあとでした。

私くらいの年代でぼっとなん便所の経験者はそれほど多くはないと思いますが、穴に落ちた夢を見た時のおぞましさを感じました。

今ではとても（ぼっとなん便所の使用）考えられません、ある意味貴重な経験なので、推薦したいトイレでもあります。

私の推薦トイレ

そんなこんなで大人になり社会に出て、人生の紆余曲折を経た私は、ただいま子育ての真っ最中！流石にオムツやおまる時代の自分の記憶はないので、我が子を見ながら、ああ～こうやってトイレができるようになったんだと思うのと、親は大変だっただろうなと苦勞を改めて知ることができました。

そんな私が推薦するトイレは、今私が一番感謝している、トイレっていうのかな、5才になった愛娘の排泄をいつも助けてくれているアレ！そう、子ども用補助便座 と踏み台！トイレというよりは器具ですね。本当にありがたいです。これがないと、大の時もずっと支えてあげないといけないので・・・。

種類もたくさんあり、選ぶのが大変でしたが、この写真のやつを愛用しています。

それと、もう一つ、娘とよく行く温泉のトイレです。最新のトイレで、前に来たらパカッと開くやつ。開くと同時に「よくきたね～」と言ってあげるとすごく喜ぶます。ふだん、外出時はトイレに行くのを嫌がるんですが、ここのトイレは素直にしてくれます。

今、子どもと出掛ける際に、一番気にするのがトイレです。もうオムツをしない年なので子供が安心してできるトイレがたくさん増えるように仕事でも頑張っていきたいと思っています。

最後に

今回は、自分の記憶を辿りながらトイレとの関わりを考えて見ましたが、この半世紀足らずで日本のトイレの進化に改めて感心するとともに、我が子がトイレを清潔で快適に使用できる社会に感謝する機会となりました。

また、能登半島地震でも改めて浮き彫りとなった災害時のトイレ問題にしっかり取組んでいきたいという意気込みを宣言し、初の寄稿をさせていただきます。ありがとうございます。

ご拝読ありがとうございました。

トヨタのモバイルトイレの見学報告

細野 直恒 運営委員/NPO法人にいまーる 理事

5 月の中旬に、トヨタ モビリティ東京の深川店で、トヨタのモバイルトイレの見学会があり、参加して来ました。このトイレは、トヨタ自動車により開発されました。今回見学させていただいたのは、最新のトヨタのモバイルトイレだそうで、最大の特徴は、普通免許で運転可能な点です。ただし牽引するには、

- ・モバイルトイレの全長は約 4.5m あるので、左右に曲がる時には、ハンドルを切るタイミングを遅らせて、大回りに回ること
- ・バックで駐車する時には、逆ハンドルを切ること
- ・モバイルトイレは 8 ナンバーで、750 kg 近くあるので、牽引車は中型車以上でないと、機敏には進めません。因みに展示会では、トヨタの水素自動車の MIRAI でした。

その他の特長として、

- ・電動車や発電機、家庭用コンセントなど、さまざまな電源で稼働が可能
- ・トイレは水洗式で、1 日程度の連続使用が出来る節水型
- ・上下水道に直結が出来るので、使用回数に制限がない
- ・車体軽減のため、設置場所でポリバケツを使い上水を供給する工夫をしている
- ・車椅子の利用者対応として、幅 80 cm、長さ 5.2m の折り畳みスロープを常設
- ・バリアフリー仕様として介助ベッドも付いている
- ・価格は、まだ今のところは牽引車の MIRAI より高いみたいです。

いつでも、どこでも、だれでも快適に使えるモバイルトイレは、災害時だけではなく、日常のレジャーの場でも存在すると、ユニバーサルデザインの見地からも助かります。

次にモバイルトイレの仕様書を紹介します

項目	内容
用途	特種（糞尿フルトレーラー）
寸法	長さ：3 m、高さ：2.3m、幅：1.9m、牽引部：1.43m
重量	750kg以下
牽引免許	不要（普通免許で牽引可能）
トイレ種別	真空式トイレ
必要電力	トイレ：1.5KW、空調機器：1.5KW、温水洗浄便座：1.5KW
給排水方法	上下水道直結または搭載タンク利用
タンク容量	90L、使用回数：約100回分



図1:モバイルトイレの紹介パンフレット



図2. モバイルトイレのトイレ部分



図3. 後部のタンクの部分



図4. 連結部分

山本耕平 会長/災害・仮設トイレ研究会代表幹事
(株)ダイナックス都市環境研究所代表取締役会長

西岡秀雄先生のこと

西岡先生との出会い

初代会長として日本トイレ協会の象徴的存在であり、トイレ協会の活動をリードしていただいたのが西岡秀雄先生です。トイレ協会が今日あるのは初代会長西岡秀雄先生がおられたからです。先生のことを知らない会員も多いと思いますので、ぜひご紹介しておきたいと思います。

西岡先生は1913年の生まれで、2011年8月に亡くなりました。トイレットピアの会ではじめてお会いした1984年頃は71歳ということになります。慶応大学は65歳定年なので、79年から名誉教授になりました。(ちなみに早稲田大学の教授定年は70歳です。)

なにせ当時の私はまだ30歳の手前でしたので、ずいぶん高齢のイメージがありました。自分自身がまもなく古稀を迎える歳になってみると、しょっちゅう海外に出かけて、博物館の館長を務められるなどエネルギッシュに活動されていたことに感服する次第です。

トイレットピアのゲストとしてきていただいてから、先生は毎回出席していただくようになったと記憶しています。いつも秘書の谷さんといっしょでした。谷さんはとてもすてきな女性で、何度か海外にご一緒したときや国際会議のレセプションでは、必ず着物をお召しになっていました。西岡先生にとっては公私ともに頼りにされていた方でした。

西岡先生は海外数十カ国に行かれたということで、行く先々でいろいろなものをコレクションされていました。そういうコレクションから比較文化論へと話が展開するのです。そのコレクションのひとつがトイレットペーパーです。ペーパーだけでなく「お尻を拭くもの」のコレクターです。トイレットピアでは、トイレットペーパー以外に、「ふき(踏)」の葉っぱや「ちゅうぎ(籌木=尻を拭く木切れ、糞べら)」、「とうもろこしの芯」とか、とにかくいろいろなものを見せながら、人文地理学の講義をされるわけです。人文地理ならぬ「人糞地理」とは、先生ご自身が言われたジョークです。



日本トイレ協会設立総会にて



1986年国際トイレフォーラム(東京)にて

考古学者で飛行機乗り！本物のインディージョーンズ

2022年2月、コロナ禍の最中に大田区立郷土博物館で、田園調布の遺跡発見ー初代館長、西岡秀雄の足跡」という企画展がありました。そのチラシにあった、先生の略歴を紹介しておきましょう。なお、大田区立郷土博物館は、西岡先生が戦前から発掘・収集してきた出土品や民族・民俗資料、自然標本などの寄贈を受けて開設された博物館です。

- ・大正 2 (1913) 年 10 月 6 日、仙台市に生まれる。
- ・大正 13 (1924) 年、青山から田園調布に転居。中学時代から考古学・人類学に関心を持ち、田園調布の遺跡の調査を始める。
- ・昭和 14 (1939) 年 3 月、慶應義塾大学文学部史学科を卒業
- ・昭和 15 (1940) 年 3 月、陸軍航空隊に入隊。以後、中国・東南アジア各地を転戦。ベトナムで終戦を迎える。
- ・昭和 39 (1964) 年 4 月、慶應義塾大学文学部教授となり、人文地理学の教鞭をとる。
- ・昭和 54 (1979) 年 11 月 3 日、大田区立郷土博物館開館。初代館長に就任。平成 13 (2001) 年 3 月まで館長を務める。
- ・平成 23 (2011) 年 8 月 1 日、逝去、享年 97 歳



2022 年の大田区立郷土博物館企画展のチラシ

考古学者なのに飛行機乗りというのは、まるでインディージョーンズみたいですが、1940 年に徴兵されるときに大学での専門を聞かれて、「ここがく」と答えたら「航空学」と間違えられて所沢の陸軍航空隊に入れられた、というのが先生の自己紹介。ジョークかと思っていたら、この話は 1988 年に発刊された大田区立郷土博物館収蔵目録の西岡秀雄コレクションという冊子の中に先生が書いていました。

「太平洋戦争が始まる頃は見習士官から少尉に任官。戦争がたけなわになると中隊長として南方各地を飛び回ることとなり、その間、机上で敵弾が腹部を通り抜ける危機もあったが、幸運にも命拾いして現在に至っている。」

さらに「戦地では考古学から次第に民族学や民俗学方面にコレクションの範囲が広がり、それが今もつづいている。」と西岡先生らしい一節も。インディージョーンズを地で行くと言っても過言ではないと思います。酒の席では笑い話にして戦時中のことを話してくれましたが、中隊長として、部下を亡くされた話もされていました。出撃の前に便意をもよおして部下を先に飛び立たせたら、先に飛んだ機がやられてしまった。ウンがよかった・・・という笑えない話も聞きました。戦争が終わったら英語が役に立つと、部下には英語を教えていたという話も。

先生は音楽好きで、音楽が命を助けたという話も聞きました。戦時中、ベトナムのどこかに不時着したんだそうです。そのときにオー・ソレ・ミオをイタリア語で歌って、イタリア人に助けってもらったとか・・・ジョークと笑いをまぶして戦時中の話をよく聞きました。トイレ協会の懇親会で輪になって歌うハワイアンの名曲「アロハ・オエ」は西岡先生が始められたものです。アロハ・オエとは「私の愛をあなたに」という意味で、「さようなら」というときに使われるそうです。

ちなみに音楽好きの血を引いたご子息の西岡信雄氏は、大阪音楽大学の学長を務められた方。ウィキペディアによると、専門は音楽人類学で、音楽大学の出身ではなく慶応の工学部と商学部を卒業してフルート奏者になって、民俗楽器の演奏者になって、大阪音大の先生になったという経歴だそうです。

世界が絶賛した！気候 700 年周期説

西岡先生は、戦後は考古学よりも地理学や民俗学、民族学の研究者としての業績が大きいようですが、子どもの頃から田園調布に暮らし、若い頃に田園調布とその周辺の遺跡の発掘・発見に多大な功績を残されています。

1933 年に慶應義塾大学に進学した先生は、重要な発掘調査に従事しながら、自宅の一角に地域の考古学研究の拠点として「西岡人類学研究所」の看板を掲げて、活動されていたそうです。特に田園調布の遺跡発掘と研究成果は学会では著名で、「田園調布から世田谷区野毛にかけて広がる荏原古墳群の分布調査は、この古墳群の実態を今日に伝える貴重な成果で、西岡が古墳に付けた番号は、遺跡名称「西岡 22 号墳」「西岡 28 号墳」などとして、現在も生き続けています。」(大田区ホームページ「初代館長西岡秀雄 学芸員コラム」※このコラムはまだ連載中です)

世界が絶賛した！気候700年周期説

前述の「初代館長、西岡秀雄の足跡」展では、40年ほど前に発足した博物館友の会の方々が、西岡館長の様々な発掘史料やコレクションの整理を現在も続けておられました。おそらく西岡先生の人柄と豊かな話題に惹かれてのことと思います。

西岡先生の著作を少し紹介しておきましょう。トイレに関しては93年に刊行された「トイレットペーパーの文化誌」、98年の「絵解き世界のおもしろトイレ事情」があります。先生は世界中を旅されてきたので、「世界の料理—風土と味覚」（1965）、「味でさぐる世界の文化」（1990）という本もあります。

訳書に、アメリカの地理学者で気候変動と文明についての著作があるエルズワース・ハンティントンの「文明の原動力」（1950）という本があります。実は西岡先生は「気候700年周期説」を提唱され、上述のE・ハンティントン（エール大学）が死の床でこの学説を絶賛したといわれています。「気候700年周期説—寒暖の歴史」（1972）は、「年輪年代法」という手法を用いて古代から700年周期で気候が変動していることを明らかにしています。「700年周期説による逆発想の日本史」（1978）という一般書には、手塚治虫が帯に「今までの歴史観をくつがえす初めての本！！」と書いています。

西岡先生から「江戸時代は寒かったのだ」という話を聞いたことがあります。なぜ？という問いに対して、「浮世絵に江戸湾に鯨やオーロラが描かれている。だから寒かったのに違いない。」といわれました。鯨とオーロラで昔は寒かったとは素人相手のジョークですが、オーロラは地磁気や太陽黒点に関係するので、気候変動とも関連するのです。発想というか着眼点がものすごくユニークで、常識にとらわれずに考えることの大事さを教えていただきました。

ちなみに気候変動によって日本列島には北方や南方からも民族移動があり、今日の日本人を形成しているという「日本人の源流をさぐる—民族移動をうながす気候変動」という著書もあります。地球温暖化が言われる前は、地球は寒冷期に入ると言われていました。何万年という周期ではそうなるだろうけれども、しばらくは温暖になる、というのが先生の説です。

私は講義を聴いたわけではないのですが、ともかく話が面白くて、よく覚えています。もうひとつ紹介しておきましょう。それは、なぜ日本人は桜の下で酒を飲むのが好きなのか、という話です。それは「サ」に



カギがある、日本には「サ」の神様がいたからなのです。サイワイもサチも、サカキもサケもサクラも、「サ神」のサ音がついています。ここから先は、「酒と桜の民族」（1981）、「なぜ、日本人は桜の下で酒を飲みたくなるのか？」（PHP新書、2009）などの本を探して読んでみてください。

西岡先生とトイレ

大田区立郷土博物館で1990年に「トイレ考」、1996年には「考古学トイレ考」という展が開催されました。めっぽう面白くて大勢の観客を集めました。

この展示では、明治初期に浅野総一郎が横浜に設置した初めての近代的な公衆トイレ（公便所）の模型が作られました。そのことを思い出して、2017年に横浜市旭区で開催した第33回全国トイレシンポジウムで借用して展示しました。

記憶に残っているのは常滑焼の肥溜めの甕。肥料に使うために、鎌倉時代の武家屋敷の便所には肥溜めの甕が埋めてありました。展示してあった甕は、高さが80センチ～1メートル近くあったように思います。それだけの大きな甕をつくる技術があったこと、常滑という現在でもトイレと関わりの深い地域でつくられていたことなど、とても興味深い展示でした。

さらには時代が下るにつれて、甕の口が内側に曲がったように加工されていて、西岡先生いわくこれはウジ虫が甕から這い上がってくると縁から甕に落ちるように工夫したのだ、すなわち「ウジ返し」である・・・と説明されましたが、甕を並べてそんな蘊蓄まで見せるところが西岡先生らしいところでした。

展示の成果をまとめた「トイレの考古学」（大田区立郷土博物館編）という本には、多数の図録とともに、西岡先生や学芸員の玉稿が掲載されており、内容も非常に多岐にわたって非常に貴重な本です。



この本の中で日本トイレ協会の2回にわたるヨーロッパトイレツアーのことも書かれています。私が発案して、第一回目はベルサイユで日仏トイレ会議を開催し、二回目は神戸での国際会議の招聘を兼ねてオーストリアやスイス、フランスに行きました。先生いわく、トイレ協会の面々は機器のハードについては専門家だけれども、文化面についてはほとんど知らないことがわかったので、2回目はソフト面を視察することにしました、とあります。

このときのツアーは実に異色で、ウィーンやパリの国立歌劇場へ行き、オペラを観劇しつつトイレについて観察するというメニューを入れました。ウィーンではモーツァルトのフィガロの結婚をみることにしましたが、われわれはオペラを突然見てもよく理解ができないので、西岡先生はわざわざ音楽家の方を招いて見所、聞き所を事前に解説してくれました。

その時の発見として、幕間にトイレに行く人は日本人の観光客ばかりで、現地の人はトイレに行かない。つまり現地の人はオペラを見るために、はじめから水分は控えておいて出かけるということがわかった。これはまさに文化の違いである。と書いておられます。

海外ではユニークなトイレもあり、先生の発案で「西岡賞」を作りました。企業の会員の方にスポンサーになっていただいて陶器製の記念絵皿を作りました。これには英語で「Newton noticed not gravity in the fall of excrement」（ニュートンもおのれのクソには気がつかず）という、西岡先生ならではの洒落っ気のある言葉が記されています。最初の授賞としてパリのオートマチックトイレとストックホルムのユニットトイレを選びました。



西岡賞の絵皿

西岡先生はこの稿の中で、これからのトイレのあるべき論についても述べています。その最初には災害トイレをあげています。災害に備えてトイレの備蓄や水洗トイレに頼るリスクについても述べたあと、トイレのBGMについて書いてあるところが面白い。トイレでくつろぎたいときは、ベートーベンの田園第1楽章、便秘がひどい人にはラヴェルのボレロがお勧めだそうです。

西岡先生との出会いは、生涯の財産になりました。

うんと知りたいトイレの話



第37回 うんと知りたいトイレの話
2024年7月24日（水）～25日（木） 能登半島地震の視察

第38回 うんと知りたいトイレの話
2024年8月22日（木） JTAトイレ賞受賞作品から Part1

第39回 うんと知りたいトイレの話
2024年9月12日（木） JTAトイレ賞受賞作品から Part2

第40回 うんと知りたいトイレの話
2024年10月17日（木） JTAトイレ賞受賞作品から Part3

能登半島地震の経験から考えるインクルーシブ防災と災害トイレ

趣旨

2024年1月1日に発生した能登半島地震では、地震による家屋の倒壊、津波、土砂災害、火災、液状化現象なども各地で発生し、奥能登地域を中心に北陸地方の各地で甚大な被害が発生した。ライフラインの寸断、上下水道の被害は大きく、被災地ではトイレの使用が困難な状態が長く続いた。外部からの携帯トイレ、仮設トイレ等の支援は行われたものの、トイレの使用に配慮が必要な障がい者や高齢者にとってきわめて深刻な状況となった。日本トイレ協会では、これまでも災害トイレをテーマとしたシンポジウムや調査、災害・仮設トイレ研究会の設置などの活動を展開してきたが、災害時のトイレ対策におけるバリアフリー対策については十分な対応ができてこなかった。今回のシンポジウムは、その反省をふまえて、インクルーシブ防災－誰一人取り残さない防災、という視点から、トイレ利用における要配慮者のトイレ問題を考えていきたい。また4月には台湾でも花蓮県を中心に地震災害があった。そこで、日本トイレ協会と友好団体である台湾衛浴文化協会から、台湾での災害トイレの実態と対応を報告していただき、日台がお互いの経験を学び合う機会としたい。

開催日程： 2024年11月20日（水）10時開場 10時30分開会 16時30分閉会

会場： 東京ビックサイト〈東京都江東区〉及び オンライン〈ZOOM〉

主催： 一般社団法人日本トイレ協会

参加費： 無料/会場定員150名（予定）

参加申し込み： オンラインによる申込み

プログラム：

キーノートスピーチ

能登半島地震の災害トイレ調査研究会の中間報告を踏まえて - 被災現場で見た実情と課題 -
高橋未樹子（日本トイレ協会 理事）

基調講演

（仮）災害時の保健医療対策とトイレの課題－能登半島地震の教訓
尾島俊之（浜松医科大学医学部医学科健康社会医学講座 教授）

特別報告

台湾における災害トイレの実情

社団法人台湾衛浴文化協会 林錦堂 理事長

報告1 被災当事者からの報告

報告2 被災地のトイレ対策 - 行政の対応と課題 -

報告3 支援者の視点からみた状況と課題

意見交換

報告者による質疑・意見交換

コーディネーター 高橋未樹子（日本トイレ協会 理事）

JTAトイレ賞 結果報告

※シンポジウム閉会后、交流会の開催を予定しています。

実行委員長：山本耕平（一社）日本トイレ協会 会長 / （株）ダイナックス都市環境研究所 代表取締役会長

問い合わせ：第40回全国トイレシンポジウム事務局 Email：sympo40@j-toilet.com

2024年度JTAトイレ賞 応募のお願い

2009年度からスタートした「グッドトイレ選奨」は、審査基準を見直し、2023年度より「JTAトイレ賞」と名称を改め、2年目になります。「みんながいつでもどこでも気持ちよく使える」トイレ環境をつくり、それを持続できる社会をつくることを目標に、顕著な活動の実践や提案を行っている方を表彰するものです。トイレの環境づくりの模範になる作品を推奨いたします。詳細は、HP、別紙の募集要項を参照ください。

応募方法及び申込締切日：所定の応募用紙にて9月17日（火）までにMailにて申し込み
※応募用紙は日本トイレ協会 HP からダウンロード可能です。

【問い合わせ先】

一般社団法人日本トイレ協会 JTAトイレ賞委員会

募集担当：高橋未樹子 / 浅井佐知子

E-mail：jta-toiletaward@j-toilet.com



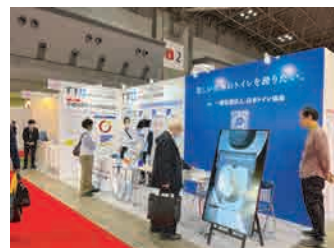
第10回トイレ産業展のご案内

今年も一般社団法人日本トイレ協会と災害・仮設トイレ研究会はトイレ産業展に出展します。昨年同様、全国トイレシンポジウムと同じ会場になりますので、みなさん是非いらしてください。

会期：2024年11月20日（水）～22日（金）3日間

会場：東京ビッグサイト東展示棟

※来場のお申込み方法等の詳細がわかりましたらメールなどでご案内します。



information

トイレ協会ニュース最新号が、HPで読めるようになります！

これまで最新号は会員ページでのみ読むことができ、1年後に一般公開されていました。

この度、より多くの皆様に読んでいただき、トイレ協会の活動を知っていただくために

最新号から日本トイレ協会HPに掲載し、どなたでも読んで頂けるようになります。



<https://j-toilet.com/>

検索



広報部提案&推薦！出ました試作ピンバッジ！スッキリ爽やかなデザイン、よく見ると便器やピクトグラムサインが隠れています。QRコードとして公式サイトへ飛べます！投稿して下さった方々へのお礼としてお送りします。

サイズ：19mm×19mm

編集後記

今月より日本トイレ協会のホームページで、日本トイレ協会ニュースの最新版が閲覧できるようになりました。広く一般の皆さんにトイレが身近になることを心から願っています。(山戸伸孝)

「トイレメンテナンス」をテーマとした映画「パーフェクト・デイズ」、ご覧になりましたか？映画内でも（その一部が）登場する「TTT (THE TOKYO TOILET)」(全17カ所の見学ツアー)が、インバウンド(訪日外国人旅行)の「コト消費」の一つとしてブームになっているようです。インバウンドにおいても、日本のトイレに興味を持って頂けるのはとてもうれしい事です。(新妻普宣)

業界に入って18年、過去最高にトイレ問題が注目されていると思います。チャンスと捉えて官民一体となってこの問題に取り組まあらゆる現場のトイレが快適になれば良いと思い日々行動しております。まずは現状把握と意識改革から。(谷本亘)

総会の翌日(特に意味はありません笑)風邪から体調が悪化、コロナ感染(2回目)、しかも肺炎で緊急入院。顔もわからないゴーグルと防護服の看護師の、ほとんど無言での点滴だらけの処置、ほんの少し開けられた窓だけが世間との会話でした。困みに鉄のドアでいつも鍵！私、逃げませんって。(竹中晴美)

第40回トイレシンポジウムご案内の掲載と、「2024年度第16回JTAトイレ賞」募集要項が同封されています。暑い夏を乗り越えて、今年も、皆様の参加をお待ちしております。(浅井佐知子)

認知症の方が外出先でトイレのマークを見てもトイレだとわからなかったり、男性用女性用の区別がつかなかったりする事例があるそうです。福岡市では「認知症フレンドリーデザイン」を導入しており、公共施設のトイレを示すマークにも採用されています。女性用トイレは人が便器に腰かけているマーク、男性用は人が便器の前に立っている姿がマークになっていて何をやる場所かすぐわかるようになっていきます。たしかに一般的なトイレのマークは何をやる場所かが示されていないかも、とハッとしました。(佐分利恵子)

いよいよシンボが本格的に動き始めました。今年こそ参加したい。(高橋佳乃)

関東地方の梅雨が明けました。週間予報は晴れ/曇りが続いているけれど梅干しを干してもいいのかな。迷う。(小澤美紀)